

同窓生からの手紙

赤穂市出身。平成21(2009)年学校教育学部学校教育系コースを卒業後、兵教大に入職。教育支援課、財務課勤務を経て、28年4月から研修生として文部科学省で研修中。



たか た ゆ う こ
高田侑子さん

兵庫教育大学総務部総務企画課付文部科学省研修生

大学での知識が今の業務に生きています

進

路に悩んだ結果、教育行政への興味から大学職員を志望し、兵庫教育大学への就職が叶いました。平成28(2016)年4月から、研修生として文部科学省へ送り出されています。

現在の担当業務は、大学の教職課程が教員免許取得のための法令等に則ったものとなっているかどうかを審査・認定するというものです。それぞれの大学は自大学の理念や方針に基づいて工夫を凝らした教職課程を組んでおり、意欲的な内容に刺激を受けています。



←難しい解釈などをよく相談しています

法令等の読み込みは大変難しく日々奮闘していますが、一方で、学生時代に基礎的な教育制度を学んだこと、そして大学職員となり実際に教職課程に携わった経験は今の自分の土台となっていると感じます。

これから進路を実現していく皆さんは、時には将来への不安に悩むこともあるかと思いますが、大学での学び、部活動、学外での経験など、積み重ねたことはきっと未来の自分の力になるはずですよ。ぜひ、恐れず、さまざまなことを吸収してください。

LETTERS FROM OB & OG

愛媛県伊予市出身。昭和58(1983)年教科・領域教育専攻自然系コースを修了。現場復帰後は教頭、指導主事、校長を歴任。平成20(2008)年退職後、えひめ理科の会会長、えひめ温泉友の会会長として活動している。



きよ た きみのり
清田公典さん

えひめ温泉友の会会長

大学院での研究を生涯にわたり生かしています!

当

時、指導教官から「君、道後温泉の近くに住んでいるのなら温泉の研究をしないか。温泉はどの地域にも存在し、子どもたちと共に研究できるし、君自身生涯の研究テーマにもなりますよ」と助言されました。この一言が、自然系理科(化学教室)の1期生として、道後温泉をテーマに修士論文に取り組みきっかけになりました。

月1回、道後温泉の現地調査、採水のため帰省。研究室で分析・まとめ。その間、現地調査の大切さを実感するとともに、生徒にも調査可能な方法を

を採ったことが現場復帰後の研究継続に大いに役立ちました。科学部の生徒と地元温泉調査をするようになったのです。

そして、退職後の平成27(2015)年に「えひめ温泉友の会」を立ち上げ、私が会長となって温泉好きな仲間と愛媛の温泉を中心に散策や学習の活動を続けています。現在は会員も増え、輪が広がっています。並行して温泉講座、講演、出前授業も行っています。

温泉に関わる実践を今でも続けることができ、恩師や兵教大大学院のおかげだと感謝しています。



→えひめ温泉友の会の発足会の様子

▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

教育実践研究活動等に係る表彰について

8月5日、6日に東京都千代田区で開催した第37回大学院同窓会関東大会で、平成29(2017)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高めた修了生が対象。今年は8人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

- ◎表彰者(敬称略)
- 嬉野賞 / 荒井豊(2期・自然系・埼玉県)、中国大三郎(3期・生徒指導・大阪府)、拝師暢彦(2期・自然系・京都府)
- 奨励賞 / 大島浩(3期・自然系・栃木県)、澁谷義人(26期・スクールリーダー・兵庫県)、古屋光晴(34期・学校経営・兵庫県)、宮内征人(28期・言語系・鹿児島県)、宮垣覚(20期・自然系・兵庫県)